

第2章 南アフリカ共和国観光部門の現状

2-1 一般概要及び経済における観光の位置づけ

(1) 南アフリカ観光の概要

南アフリカは、アフリカ大陸の南端に位置し、総面積は121万9,090km²で、日本の3倍以上に相当する。ナミビア、ボツワナ、ジンバブエ、モザンビーク、スワジランドと国境を接しており、飛び地のようにレソトがある（位置図参照）。自然環境は変化に富んでいる。国土は南緯22～35度及び東経17～33度に位置しているが、インド洋沖を北から南へ流れる暖流（アグラス海流）と大西洋沖を南から北へ流れる寒流（ベンゲラ海流）、さらに貿易風や地形の影響を受け、気候は地域によって大きく異なっている。

人口は約4,058万人（1996年）。首都はプレトリア（行政首都）、ケープ・タウン（立法首都）、ブルームフォンテイン（司法首都）で、最大の都市はケープ・タウンである。

南アフリカ観光は順調に成長してきている。旅行客は1991年から急増しており、1998年には570万人を突破し、アフリカ大陸最大の観光客受入国となっている。主要な観光客層は、英国、ドイツ、米国等欧米諸国と、レソト、スワジランド、ジンバブエ、ボツワナ等周辺アフリカ諸国である。日本人旅行客は2万2,000人と、全体の1%にも満たないが、5年前に比べると1.7倍になっている。

外国人観光客の半数以上がケープ・タウンを訪れており、訪問者数上位3位の観光地はすべてケープ・タウンにある。ケープ・タウンを有するウエスタン・ケープ州は、名実ともに南アフリカを代表する観光地であり、ほとんどの日本人ツアー客もこの地を訪れている。国内には、このほかにもクルーガー国立公園、ワインルート、ダーバンなど、様々な観光資源を有し、開発ポテンシャルは高い。アパルトヘイト時代からケープ・タウンをはじめとする主要観光地における観光開発が進められていたことから、観光部門の開発はソフト面、ハード面ともに国際水準に達しているといえる。特に、環境配慮に関しては、制度的にもかなり充実しており、南アフリカを訪れる観光客の多くが求めている「自然／景色の美しさ」を維持していく体制が整えられている。代表的な観光地においては、都市インフラはもとより観光インフラも先進国並みに整備されている。

南アフリカ政府は、アパルトヘイト終焉に伴う、貧困層のエンパワーメントの方策としての観光開発に大きな期待を抱いている。DEATは、観光開発をいかに地域開発、雇用創出、投資促進に繋げていくかを積極的に調査研究している。通商産業省でもSDI'sに観光開発（agri-tourism）を取り入れていて、運輸インフラ整備と関連させた形での開発計画が策定されている。また、SATOURでも、年2回観光客の統計、嗜好及び動向等に係る調査を継続的に実施してきており、数値的なデータに基づいたプロモーション活動を行っている。

S A T O U Rでは、州政府等の tourism board との人事交流／情報交換も行い、州レベルの宣伝活動を支援している。

一方、南アフリカ観光の制約要因としてまず第一にあげられる治安問題は、ヨハネスブルグの一部地域においては今なお深刻な状況である。イメージがその成功を左右することになる観光産業にとって、「世界一危険な街」というレッテルは致命的な問題である。D E A Tも警察と連携しつつこの問題に取り組んでいるが、対外的に改善をアピールするまでには至っていない。

(2) 経済における観光の位置づけ

1998年の南アフリカ国際観光客数は573万3,000人で、そのうち海外諸国からは142万8,000人であり残りは近隣アフリカ諸国からであった。海外からで最も多い国は英国32万人、次いでドイツ20万人、米国19万人の順であり、日本は2.2万人であった。

国際観光客にとっては、南アフリカの景観の美しさと野生生物が最大の魅力である。観光は南アフリカにおいては第4の産業として、ホテル1,200軒、ゲストハウス2,000軒、レストラン3,000軒がこれを支えている。

1996年の観光白書によると、南アフリカ政府は、①現在観光の対GDP比率が4.5%であるものを2000年には8%に、更に2005年には10%にすること、②この先10年間の観光客受入れを年率15%増加させること、③1996年の国際観光収入100億ランド（約2,000億円）を2005年には4倍の400億ランドに増加させること、④2000年までには海外からの来訪客を220万人に、アフリカ諸国からの来訪者を480万人にすること、を目標としている。しかしながら、セキュリティーの問題や観光労働者の技能の欠如等種々の制約条件を抱えており、目標達成のために解決しなければならない問題は多い。

世界的に見ても、観光部門は21世紀の世界経済を牽引する基幹産業として最も成長する分野であると認識されている。南アフリカにおいても、観光振興は極めて重要な経済発展の牽引車となっており、1998年の政府報告書によると、直接あるいは間接に観光から得た利益はGDPの8.2%であったが、世界の平均が11%であることにかんがみ、更なる成長の可能性を有しているものと期待されている。

1998年9月の調査報告によれば、観光産業は南アフリカ経済に対して約74万人の雇用効果をもたらしているとしている。この雇用人口は2010年には125万人にも達するものと推計されている。

最も成長している観光分野は、自然写真撮影、野鳥観察、植物調査、シュノーケリング、ハイキング及び登山を含めたエコツーリズムである。国立又は州立公園及び私有ゲームリザーブは自然資源の保全と管理において地方の地域社会を巻き込んでいるため、これらの社会がエコ

ツーリズムから単なる経済的利益を得るばかりでなく、環境保護に対して責任をもつという自覚をもたらしている。

2-2 観光関連行政

2-2-1 観光行政機関

(1) 環境観光省（DEAT）

南アフリカ政府の観光振興に関する政策立案と観光開発を実施しているのが環境観光省（DEAT）である。DEATは環境観光大臣、総局長（3人）、副総局長（6人）の下に観光局（職員15人）、生物多様・遺跡局（同33人）、海洋沿岸管理局（687人）、総務局（179人）、環境対策局（81人）、環境調整局（61人）、気象庁（414人）で構成されている。DEAT観光局では観光ビジネスの振興、観光開発政策、州政府との調整、観光人材開発、各種調査研究、旅行者安全対策、国際関係業務を行っているが職員数は極端に少ない。1999会計年度の観光局の予算は1億2,603万7,000ランド（SATOURに対する補助金は除く）である。

環境観光省は1995年に今後の観光政策の枠組みと観光開発の基本方針とする観光白書をまとめ閣議の決定を得たところである。また、環境観光省はこの観光白書をベースに1998～2000年の中期観光開発戦略として「Tourism in GEAR」（成長・雇用・再配分における観光）を発表し閣議了承された。

(2) 政府観光局（SATOUR：South African Tourism）

1993年の観光法により設立されたSouth African Tourism（SATOUR）は、観光施設やサービスの水準の向上を図り南アフリカ観光の振興を促進する特殊法人である。官民及び州代表15名以上20名以内で構成されるBoardが最高意思決定機関である。SATOURの組織は本部は広報室（職員4名）、総務部（同24名）、人事課（6名）、情報管理・調査部（12名）、法務室・監査室（6名）、マーケティング部（80名）で構成され、国内にはヨハネスブルグ空港に観光案内所（職員5名）、海外にはシドニー（4名）、ウィーン（1名）、アムステルダム（5名）、パリ（4名）、フランクフルト（11名）、ミラノ（1名）、東京（2名）、ロンドン（9名）、ニューヨーク（7名）、ハラレ（ジンバブエ：4名）に海外宣伝事務所を設けている。

SATOURの主な業務は、マーケティング及び海外宣伝が中心であるが宿泊施設の基準整備、ツーリスト・ガイドの登録、コンベンション振興についてもマーケティング部のなかで行っている。

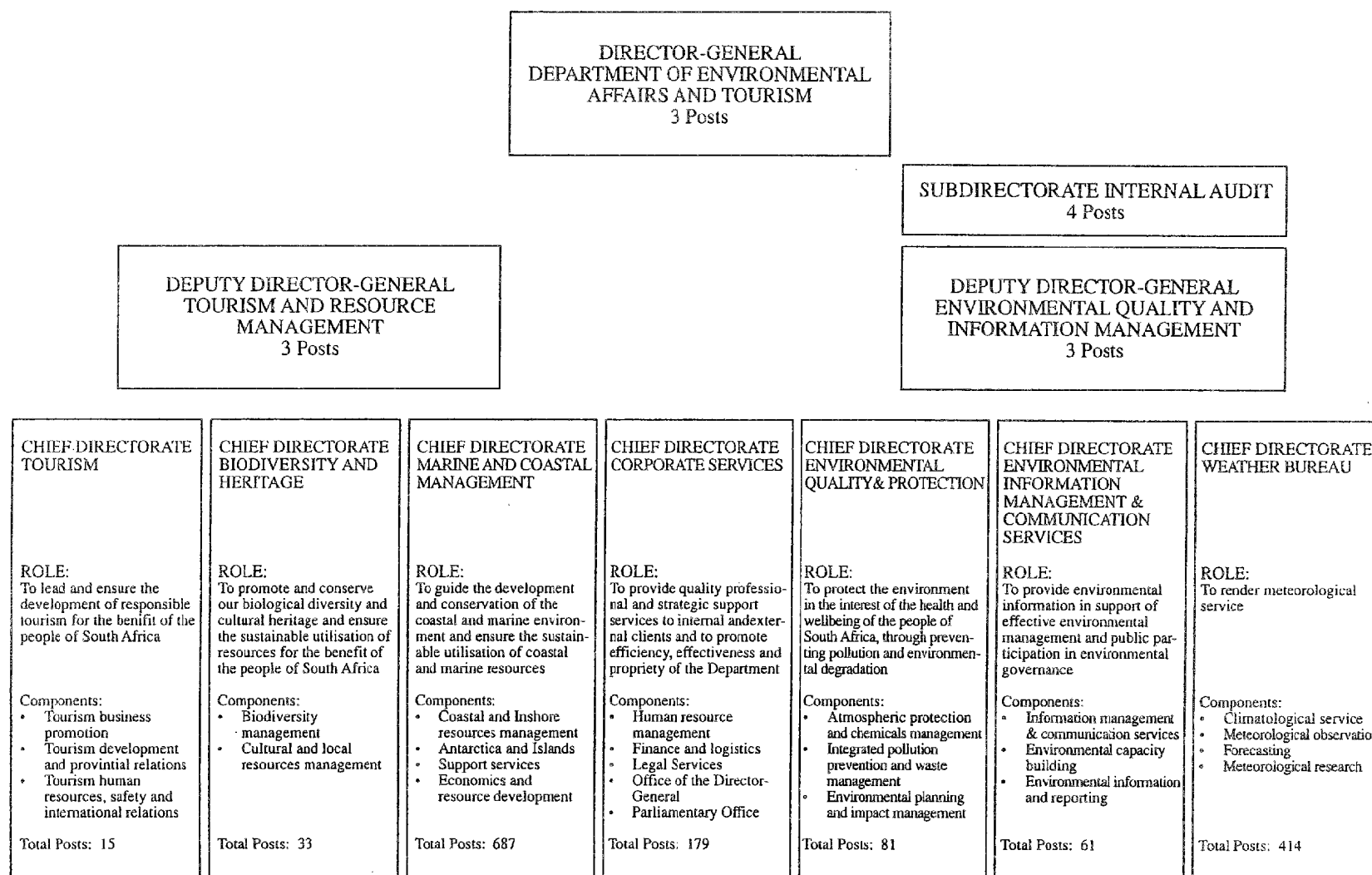
(3) 州政府

州政府は一部例外を除き中央政府レベルと同等（調整、規制、監督、開発促進）の責任を負っている。州観光機関は国家政策に基づき州の観光政策を決定する。この両機関は国家政策、国家戦略、国家目的を実現するためのパートナーでもある。州政府は州観光機関を通じて州のマーケティング及び観光宣伝を行うことになっている。国際観光マーケティングに関しては、S A T O U R と州の観光機関が協力することにより強力かつ効果的なマーケティング戦略を行っている。

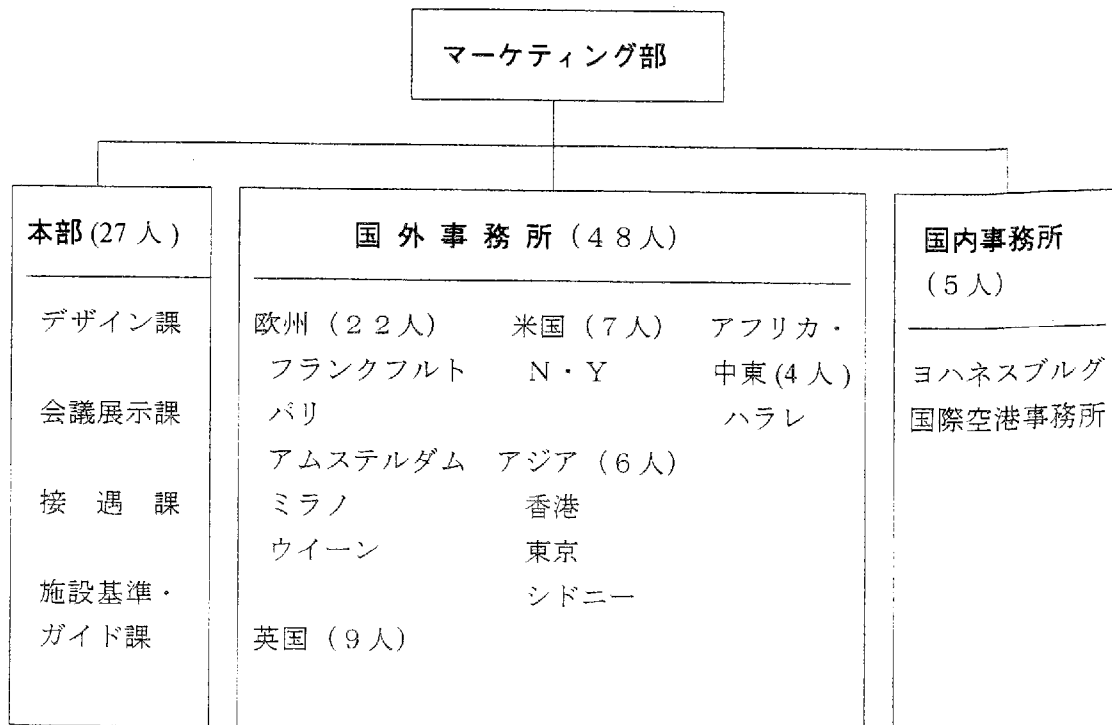
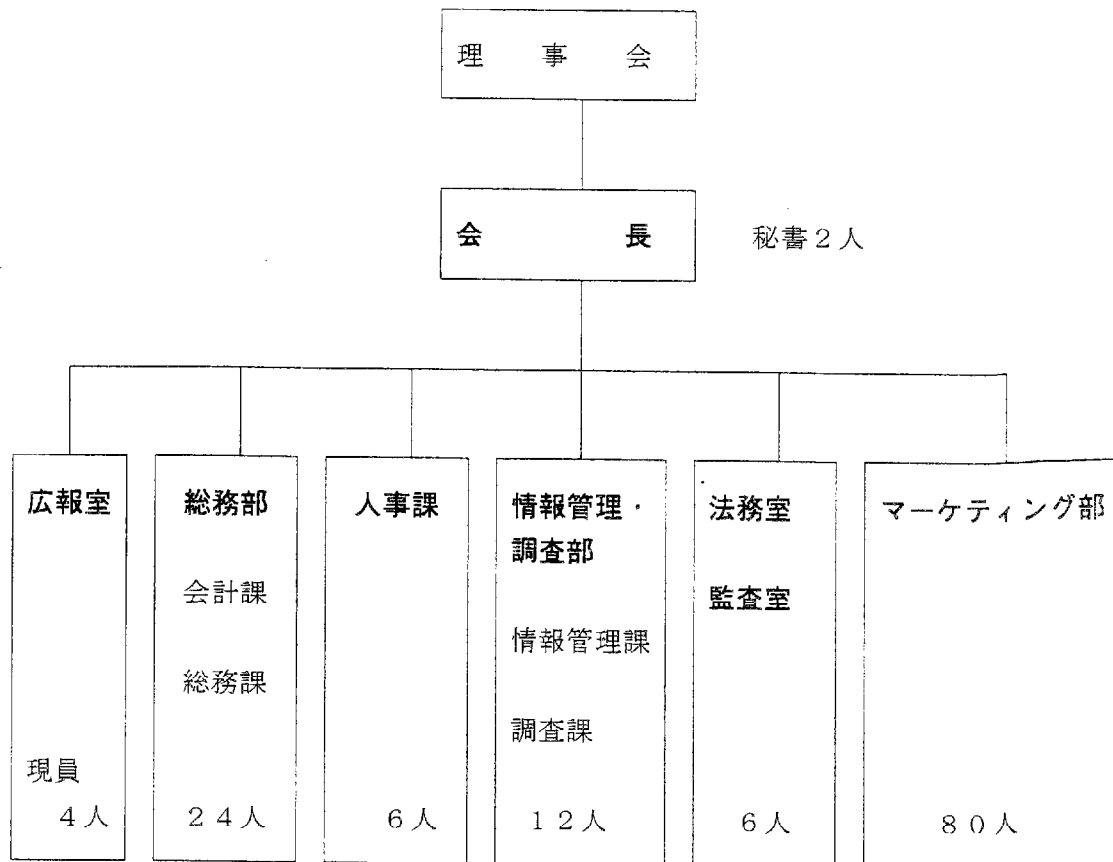
次項にD E A T 及びS A T O U R の組織図及びD E A T の予算を記載する。

DEPARTMENT OF ENVIRONMENTAL AFFAIRS AND TOURISM

STRUCTURE OF THE DEPARTMENT



SATORの組織



**MTEF BUDGET / FINANCIAL FRAMEWORK OF THE
DEPARTMENT**

MAIN PROGRAMMES	POSTS 1999	1997/1998 Actual	1998/1999 Actual	1999/2000 Budget
1. Administration	194	22,852	24,352	28,446
2. Environmental Coordination and Communication	61	13,188	13,020	16,768
3. Marine and Coastal Management	650	76,922	78,492	81,744
4. Weather Bureau	414	57,872	59,871	58,180
5. Tourism	15	68,964	80,561	126,037
6. Environmental Quality and Protection	81	26,608	17,144	27,880
7. Biodiversity and Heritage	33	96,500	104,755	104,881
8. Auxiliary and Associated Services	*3 37	19,863	20,047	18,933
SUBTOTAL	1485	382,839	398,242	462,869
CAPITAL WORKS		-	-	-
TOTAL	1485 Including 2 Ministers	382,839	398,242	462,869

* 1 This budget excludes donor funds.

* 2 This framework covers only the MTEF budget.

* 3 Antarctica & Island as a separate programme within Marine & Coastal Management

2-2-2 開発計画

(観光に係る既存の開発計画及び本件調査に深く関連する調査等)

(1) 復興開発計画 (R D P : Reconstruction and Development Programme)

1994年9月に公表されたR D Pは、国の根本的な変革のための南アフリカ政府の大方針である。R D Pは復興と開発が黒人差別をなくすプロセスであるとの概念のうえに成り立っている。R D Pは成長、開発、復興、再配分及び和解のすべてをまとめた計画として集大成したものであり、次の7つの基本原則(①統合と持続性、②国民主導、③平和と安全、④国家建設、⑤基本的ニーズに合ったインフラストラクチャーの整備、⑥民主化、⑦評価と責務)により成り立っている。

R D Pの具体的な計画としては次のものが含まれている。

- ・基本ニーズに合致：

雇用創出、土地及び農地の改革から住宅、上下水道、エネルギー供給、交通、栄養、医療、環境、社会保障まで

- ・人材資源の開発：

全教育訓練機関のエネルギーの結集、人種差別の廃止、生涯教育、芸術文化、スポーツ、青年と若い女性の教育

- ・経済力の強化：

経済的捻れの解消、経済障壁の除去、労働権の保証、地域間協力

- ・国家社会の民主化：

民主主義社会制度の構築と実践

また、人種間の経済的格差是正をめざし、劣悪な状況にある黒人社会の生活水準を向上させるため、次の事業を行うこととしている。

- ・公共事業の積極的な実施 (250万人の雇用創出を図る)
- ・土地改革の断行 (白人に所有されている農地の30%を再配分する)
- ・水資源の開発 (200 m以内に50～60 l / 人日を確保する)
- ・電力供給体制を整備 (2000年までに250万世帯に電力配給する)
- ・通信の整備 (すべての国民に通信へのアクセスを確保する)
- ・鉄道、バス等の公共交通機関の整備等

(2) 地域開発計画 (S D I : Spatial Development Initiatives)

通商産業省が策定した本計画は、南アフリカにおける国際競争力ある産業への投資を促進することにより経済成長と雇用機会の創出を図ろうとするものである。主な目的は、①近代

産業の基礎となる資源を有する地域へ新たな民間投資を結集させる、②長期の安定した雇用を創出する、③新たなビジネス機会を活用することによって地域の経済開発を促進する、④中小企業の発展を図る、⑤経済開発計画を策定する地方政府等の能力の強化を図る、等である。

南アフリカの交通インフラはアフリカでは最もよく整備されているとはいえるものの、旧黒人居住地区についてはこれまでなおざりにされてきており、極めて貧弱であることから、政府は当該地区を 11 の優先開発地域として指定している。

この S D I では単に整備の遅れている黒人居住地域の交通インフラを整備することを目的にしているのではなく、これら地域が有する豊富な自然資源を開発していくことが目的である。実際、これらの地域のうちの 8 か所は、特有の自然資源を利用して観光開発を推進することをその開発の目的としている。2 万 2,000ha の湿原の自然公園整備計画を有するルボンボ地区は、ラムサール条約でも貴重な観光資源として認められており、観光開発を目玉とした S D I の代表といえる。

なお、D E A T には、ルボンボ S D I とワイルド・コースト S D I を担当する総局長が置かれている。

(3) 成長・雇用・再配分 (G E A R : Growth, Employment and Redistribution)

1996 年にマクロ経済政策の骨子として G E A R を発表し、2001 年には G D P の実質成長率を 6 % にすることにより 40 万人の新規雇用創出を図るための各種施策を講じることとしている。具体的には次のとおり：

- ・ 金以外の輸出産品の育成を図る
- ・ 投資環境整備による民間分野の資本形成の拡充
- ・ 資本効率とサービス改善による公共投資の促進
- ・ 柔軟な労働市場を確立することによる投資と生産の成長
- ・ インフラストラクチャーの整備促進
- ・ 人材開発を通じた労働技術の活用

(4) 南アフリカ観光の開発と振興 (観光白書) : (White Paper : The Development & Promotion of Tourism in South Africa)

1996 年 6 月、南アフリカ政府は欧州連合 (E U) からの技術協力を得て観光政策のフレームワークと観光開発のガイドライン「南アフリカ観光の開発と振興」(通称「観光白書」)を取りまとめ、閣議了解を得た。本白書は観光開発政策のガイドライン／フレームワーク等を含むマスタープラン (M / P) に相当するものとして位置づけられており、今後の課題とそ

の対応についての基本的な考え方を示している。

本白書の作成に先立って、1995年にD E A T大臣により任命された“ Interim Tourism Task Team ”が、観光ビジネス、労働流動、国州地方政府の役割等に係る将来的な国家観光政策を取りまとめた“ Green Paper ”を提出しており、本白書は、この“ Green Paper ”を基にしてE Uの技術協力により作成された。

上述のとおり観光セクターのM／Pに相当するものなので、内容は次のとおり包括的になっている：

1) 南アフリカ観光の役割：

南アフリカの観光ポテンシャル、経済的役割／影響等

2) 問題点の整理及び改善策：

組織間（国／州／地方／民間／任意団体（女性・N G O s））の役割分担、D E A TとS A T O U Rの組織（強化）、政策、人材、サービス、環境、地域間格差（これまで無視されていた層への配慮）、治安、投資、環境・文化管理、観光商品開発、アクセス交通、マーケティング、基準標準設定、S A D C（Southern African Development Committee）との協調）

3) 開発の目的、基本方針：

本格調査の“ AGREEMENT ”にもいくつか含まれているとおり、持続可能な開発、環境及び地域社会への配慮、他産業への波及効果、貧困層への配慮等

4) “ Responsible Tourism ”（local communityを取り込んで、彼らに尊厳を与え、自然環境の維持・観光客の安全についての意識／責任を植え付ける）の提案及びそのアクションプラン

(5) Tourism in GEAR：（Tourism Development Strategy 1998-2000）

観光白書が発表されたあと、全国あるいは州の観光関係者を巻き込んだアクションプランのフレームワーク及びG E A Rと観光開発との関連性が“ Tourism in GEAR ”としてまとめられた。

南アフリカ観光開発の基本理念である「観光開発は政府によって先導（lead）され、民間によって制御（drive）される」という標語はここで提案されている。また、2000年を目標年次とした各種目標や、S W O T（Strong、Weak、Opportunity、Threat）分析、そしてこれら目標を達成するための組織的／資金的な面での提言も簡略ながらなされている。

なお、アクションプランの内容は、組織強化／マーケティング・振興／品質管理（格づけ等）／人材開発／投資促進／近隣諸国・国内関連機関との協調等多岐にわたっており、これらは次の5つの側面からなされている：

i) 目的、ii) 具体的なアクション、iii) 行動主体、iv) 目標年次、v) 優先性

(6) 南アフリカ観光の開発と振興における政府組織のガイドライン：(Institutional Guidelines for Public Sector Tourism Development and Promotion in South Africa)

DEATによって1999年5月に作成された。観光部門における国、州、地方自治体の役割について次の観点からの提言を行ったもの。

法制度／国際関係／マーケティング・振興（国内及び国外）、各種基準整備／人材開発／観光情報管理／投資計画／ツアーガイド／治安

(7) 南アフリカ観光の挑戦“観光クラスターの側面”：(South Africa's Tourism Challenge “A Profile of the Tourism Cluster”)

“the Cluster Consortium”(南アフリカ／米国／ニュージーランドのジョイントコンサル。プロジェクトの事業化をコンサルティングする)が発行したもの。観光を主体とした経済開発を推進していくためのヴィジョン、戦略及びアクションプランに関して、観光関連機関間でのコンセンサスを形成し、経済的・社会的な資産を再構築していかに南アフリカ観光産業を競争力のあるものにしていくかについて政策的な側面から提言したもの(1999/04で中間報告)。このプロセスをTourism Collaborative Action Process “Clustering”と呼ぶ。

主な内容は次のとおり：

- 1) 南アフリカ経済における観光部門のインパクト分析
- 2) 観光産業成長の制約となっているもの：治安、投資、人材開発、インフラ、州政府の非力な体制等
- 3) 国際観光市場の傾向：成熟した市場（ヨーロッパ）と発展が見込まれる市場（アジア（含日本、台湾、韓国）・北米）における国ごとのトレンド（旅行の種類・余暇の取り方・宿泊日数・嗜好・支出・旅行販売システム等）、競合する観光立国（米国・豪州・ケニア）のマーケット戦略／振興策等の例
- 4) 南アフリカ観光の長所の洗い出し（各州ごとのレビュー）
- 5) 観光産業の発展に向けて：SATOURのリストラ／機能強化、各関係機関（官民）の協調

* 南アフリカ観光群（tourism cluster）は次の3つに区分される：

- i) leading Sectors：宿泊施設／交通／代理店／観光資源
- ii) supporting industries：飲食店／民芸品／広告代理店
- iii) economic foundations：人材開発／インフラ／投資

(8) 南アフリカ観光旅行“ 21世紀への経済牽引車 ”: (South Africa's Travel & Tourism“ Economic Driver for the 21st Century ”)

観光が南アフリカ経済(雇用)に与える影響の評価をまとめたもので、1998年に世界貿易機関(WTO)によって作成された。

内容は次のとおり:

- ・観光による経済・雇用影響評価
- ・観光産業成長予測(2010年): 楽観的、ベースライン、悲観的、の3つのシナリオが設定されており、観光客の支出・入り込み客数・観光関連輸出入・GDP・投資・税収等について、世界での値と南アフリカでの値とを比較

また、アクションプランとして次の項目を提言している。

- 1) 観光開発に優先性を与えるためのaction plan: 観光業が経済に与える影響を認識し、雇用・教育等の観点から観光産業を政策の中心に据える等
- 2) 競争市場への移行のためのaction plan: WTO、SADCの下での運輸・通信部門及び貿易部門の自由化／SATOUR組織再編／マーケティング強化・調整
- 3) 持続可能な開発のためのaction plan: エコツーリズム開発／地方共同体への配慮及び事業化へ向けたマイクロローンの実施
- 4) 成長を阻害するものを排除するためのaction plan: 治安維持／教育・研修の実施／インフラ整備／国際機関等からの投資促進

(9) 南アフリカ観光分野における研修の必要性和リソース: (Tourism Training Needs and Resources in South Africa)

観光分野における、教育／研修の戦略を策定するための基本資料となるもの。既存の研修スキームの規模及び欠点／問題点、将来的な研修ニーズ等をレビューしている。

また、観光業界に関連する各セクター、ホテル／レストラン、旅行代理店、ツアーオペレーター及びゲームリザーブ等の経営者及び労働者に対する研修はこれまで the Hospitality Industries Training Board (HITB) と the Tourism Training Advisory Council (TTAC) が実施していたが、これを統括する分野別教育研修組織 (SETA: Sector Education and Training Authority) として THE TA (Tourism & Hospitality Education and Training Authority) を設立し、旧組織の人員、業務、権利、財産等をすべて統合する(2000年4月)。THE TAについては“ Tourism & Hospitality Education and Training Authority, Application for Registration as a SETA ”に取りまとめられている。

(10) S A T O U R国際マーケティング戦略 1997－1999：（SATOUR's International Focus & Broad Marketing Strategy 1997-1999）

S A T O U Rの国際マーケティングについての目的、照準、幅広い戦略を定義したもの。ヨーロッパ、アメリカ、アジア／オーストラレイシア（豪州、ニュージーランド）、アフリカ中近東についての基本戦略を策定。

このほかにも S A T O U Rの日本、ドイツ、英国、豪州等の事務所が各国における観光客市場分析及びビジネスマーケティング計画を策定し、報告書にまとめている。これら報告書には、南アフリカ観光競合国（ケニア、アメリカ等）における長所／短所分析や観光振興／宣伝のための具体的なアクションプランも含まれている。

(11) 国際及び国内観光開発のためのインフラレビュー：（Review of Infrastructure in Support of International & Domestic Tourism Development）

フェーズⅠでインフラ開発対象選定の方法論を決定し、フェーズⅡで優先地域（P A T I I's：Priority Areas for Tourism Infrastructure Investment）を決める。フェーズⅢでインフラ開発のフレームワークの決定（どの地域でどういうインフラを今後整備していく必要があるのか）を行う。具体的には次のステップによって調査を実施している：

①既存データレビュー ②主要なインフラの図化 ③既存の観光資源の図化 ④各観光地における集客数とホテルベッド数 ⑤政府観光政策の反映 ⑥（観光の国際的傾向及び国家戦略等を反映させた）各観光地における将来需要予測 ⑦これら情報のG I Sへの落とし込み ⑧観光資源のポテンシャルと貧困の度合いとを考慮し、ゲートウェイ、観光回廊及び観光客集積地域（将来的な投資優先地域の指針）を決定 ⑨各地域において今後必要とされるインフラの提言（F／S：フィージビリティ・スタディは含まず）一連の行程から分かるとおり、分析には、資源分布・地域所得（貧困）・需要・経済性・既存施設・政府観光開発計画等を考慮に入れており、選定された優先地域は多方面から見て妥当性の高いものであると思量される。

2－2－3 観光政策

観光政策の基本となる観光白書では、すべての南アフリカ国民の生活水準の向上に貢献する国家政策の優先課題として観光開発を位置づけており、新生南アフリカの再生と開発の主力とすべく国際競争力をつけることを基本方針としている。

観光政策の具体的な方針等は次項のとおり。

(1) 開発基本方針

- ・観光は民間セクターにより牽引される
- ・政府は観光事業発展のために必要な枠組みを策定する
- ・地域社会の効果的な参画は観光発展の基盤を形成する
- ・観光の発展は持続可能な環境管理により支持される
- ・観光開発は、主要な利害関係者間の緊密な協力体制の確立を意味するとともに、その発展の可能性はこれに依存する
- ・観光を旧被差別社会（特に女性）の権限強化／発展のために役立てる
- ・観光の発展は南部アフリカ諸国との緊密な協力の下で成り立つ
- ・観光の発展は経済・社会・環境開発の目的を支持するとともに政府の政策を支えるものである

(2) 観光発展のためのファクター

- ・持続可能な環境管理の実践
- ・地域共同体と旧被差別社会の取り込み
- ・安全かつ安定した観光環境
- ・質の高いサービスの提供による国際競争力の強化
- ・消費者ニーズへの革新的で的確な対応
- ・商品の質の向上と多様化への対応
- ・効果的な観光教育
- ・創造的で積極的なマーケティングと宣伝
- ・他の経済セクターとの強力な経済的連結
- ・適正な組織構造
- ・適正な支援インフラ

(3) 具体的数値目標

- ・観光の対GDPへの貢献を2000年までに8%、2005年までに10%に増加させる
- ・今後10年間は外客受入れの毎年15%増を維持する
- ・2005年までに100万人の新規雇用を作り出す
- ・観光による外貨収入を1996年の100億ランドから2005年は400億ランドに増加させる
- ・2000年までに海外から200万人、アフリカ諸国から400万人の旅行者を受け入れる
- ・1996年中に観光政策の戦略／目的／目標を実現するための観光アクション計画を策定する
- ・マンデラ大統領に支持された国家優先観光プロジェクトのうち最低5つを1998年までに

選定し実施する

- ・ 1998 年までには学校の授業科目に観光を取り入れる

(4) 責任ある観光の概念

観光白書では経済を活性化し黒人の観光への参加を奨励するために新しい観光の概念として「責任ある観光」(Responsible Tourism)を提案している。責任の概念としては、環境に対する責任、政府と企業による地域社会を観光に取り込む責任、商業主義の行き過ぎによる地域文化を保護する責任、地域住民による持続可能な開発を実践する責任、観光客の安全と健康を確保する責任、観光産業の経営者と従業員の相互または顧客に対する責任等があげられており、持続可能な観光を実現する方策として南アフリカ観光開発方針の基礎をなしている。

また、「責任ある観光」を実施するためには、すべての利害関係者の参画を促進することが重要な課題となる。

2-2-4 観光振興／宣伝

南アフリカの観光振興を図るうえでは効果的かつ創造的な観光マーケティングと宣伝が重要である。特に、州レベルの観光宣伝は州政府（州観光公社）の責任となっているため、国際観光レベルでのマーケティング及び宣伝が希薄になっている。南アフリカが国際観光地として成功していくためには、9つの州を横断したマーケティング及び宣伝を効果的に行っていく必要がある。

国際観光のマーケティングは主として政府観光公社の責任において行われるべきであり、国全体としてのマーケティング及び振興計画は州及び民間との協力で行うべきであるが、国内観光マーケティングは州の責任となろう。南アフリカの観光振興方策は以下のとおり：

- ・ 南アフリカ国民に対する積極的なマーケティング・宣伝を行うとともに市民が休暇をとることを促進する
- ・ 南アフリカ居住者に対して観光魅力と体験に関するマーケティング・宣伝を行うとともに地方旅行を促進する
- ・ 海外からの消費者に有利な為替レートを保証するなどの消費者価格戦略を採用する
- ・ 国内観光振興に加えて国際ビジネス、国際会議、インセンティブ旅行を促進する
- ・ 国内観光促進のための広報努力をする
- ・ 既存観光サイトばかりでなく新たな観光商品・魅力も強調する
- ・ 各関係機関等と協力して宣伝及び振興を実行する
- ・ 観光マーケティングと宣伝に多くの資源を割く（特に支出／人の多い国において）
- ・ ハネムーン、ハイキング、マウンテンバイク、バックパッカー等の新市場を開拓する

- ・広報宣伝費用の効果測定メカニズムを確立する
- ・各州の観光情報の調整を図り、国レベルの情報を州にも供給する
- ・州観光公社のイニシアティブによって国レベルの情報を広く普及させる
- ・インフラ等を整備することにより旧被差別層の国内観光を容易化する
- ・学生旅行を促進する

2-2-5 観光分野の人材育成

観光分野の人材育成は南アフリカ観光の振興を図るうえで最も重要な分野である。2005年には観光産業で40万人の人材育成が必要とされるものの、教育訓練施設の整備が十分でないとされている。一方1996年からパイロット計画として国内の中等学校の授業のなかに観光とケータリングを取り入れ成功してきた。1998年10月現在、全国2万校の中等学校のうち64校で4,500人の生徒が観光科目の授業を受けている。1999年にはホスピタリティーについての授業を取り入れているのは27の学校と大学となっているが、資金不足等が問題となっている。

また、観光分野の職業訓練としては、私立の職業訓練大学、職業訓練機関、第三機関、政府系ホテル学校、技術大学、労働省職業訓練センターで行われている。

観光白書では、観光分野の教育と職業訓練についての基本方針として、民間セクターの取り込み、黒人層の能力開発、中小企業の育成、黒人社会の教育機会の増進、観光認識の覚醒、教育システム開発による自国労働力の確保等を掲げている。

また、政府の人材資源開発は以下のガイドラインで実施すべきとしている。

- ・黒人層の観光事業への参加を容易にするための入門コースの提供を支援
- ・奨学金、学費ローン制度等による黒人層の教育訓練機会の容易化
- ・民芸品のデザイン等の改善を支援
- ・ホエールウォッチング等の特殊なツアー・ガイド養成コースの創設
- ・豪州・ケニア等を参考にした教育支援制度の創出
- ・現状の観光人材養成制度のレビュー
- ・観光人材養成関係のデータベースの整備
- ・業界ニーズに応じたカリキュラムの作成
- ・観光人材養成機関で構成するフォーラムの創設
- ・労働省、文部省、環境観光省間の調整
- ・国家資格制度にリンクしたコースの開発
- ・学校教育における観光カリキュラムの採用促進、その他

2-2-6 観光客の安全対策

南アフリカの犯罪対策は安全治安省の監督下にある南アフリカ警察（SA Police Service）が責任を負っている。南アフリカ警察のトップは国家警視総監でありその下に警視総監補佐官（1名）と警視副総監（4名）が防犯部、管理部、諜報部、捜査部を担当し、州警察（9州）も傘下におさめている。

南アフリカの犯罪状況は南アフリカ観光にとってネガティブ・インパクトになっているため、観光安全のための作業グループ（Tourism Safety Task Group）がD E A Tの主導で設立された。グループはD E A T、南アフリカ警察、S A T O U R、観光産業協議会、外務省、州政府（9州）等で構成されている。観光安全作業グループの目的は、地域社会の警視、犯罪に見舞われている観光客の支援及び観光客の安全のための公衆の役割についての教育を通じてすべての観光客の安全性を改善することである。作業グループは外国人観光客に対して6か国語による安全に関するリーフレットを配布するとともに、国内観光関係者には定期的なニュースレターを送付している。

2-3 主要な観光資源とその特性

2-3-1 全国的な概要

(1) 観光資源

南アフリカは、古く紀元前より先住民の歴史はあるものの、近代国家としての発展は主に19、20世紀になってからであり、基本的にはヨーロッパからの移民により国づくりが進められたといえる。

このため、一部の人が興味をもつボーア戦跡などの例外を除いて、国際観光に対応した歴史財、文化財といった方面での観光資源は極めて少ないのが特色である。一方、アフリカという地理的な条件に加えて、歴史の浅い国という条件も加わり、全国的に自然は豊富であり、観光資源の基本を成している。

以上のような内容を受け、国際観光という視野から魅力となり得る南アフリカの観光資源の大まかな分類を試みると、表2-3-1のようになる。

表 2－3－1 国際的に魅力をもつ観光資源特性

特 性	代表例
◆ヨーロッパからの移民の歴史を現在に伝え、近代都市としての都市景観や都市的サービス（食事、エンターテインメントなど）などを売り物にする観光地	ケープ・タウン
◆広大な自然を有し、快適な滞在とアフリカならではの動物探勝を楽しめる国立公園、保護地	クルーガー・ナショナル・パーク
◆ひとつひとつは国際級ではないものの、自然活動（ハイキングなど）と保養・観光など、「する」、「みる」、「とまる」の様々な体験が楽しめる複合的な観光地	ガーデン・ルート

また、現地調査の結果や国内外の観光ガイドを参考として、同国の観光的なハイライトとして考えられる資源を図化すると、図 2－3－1 のようになる。

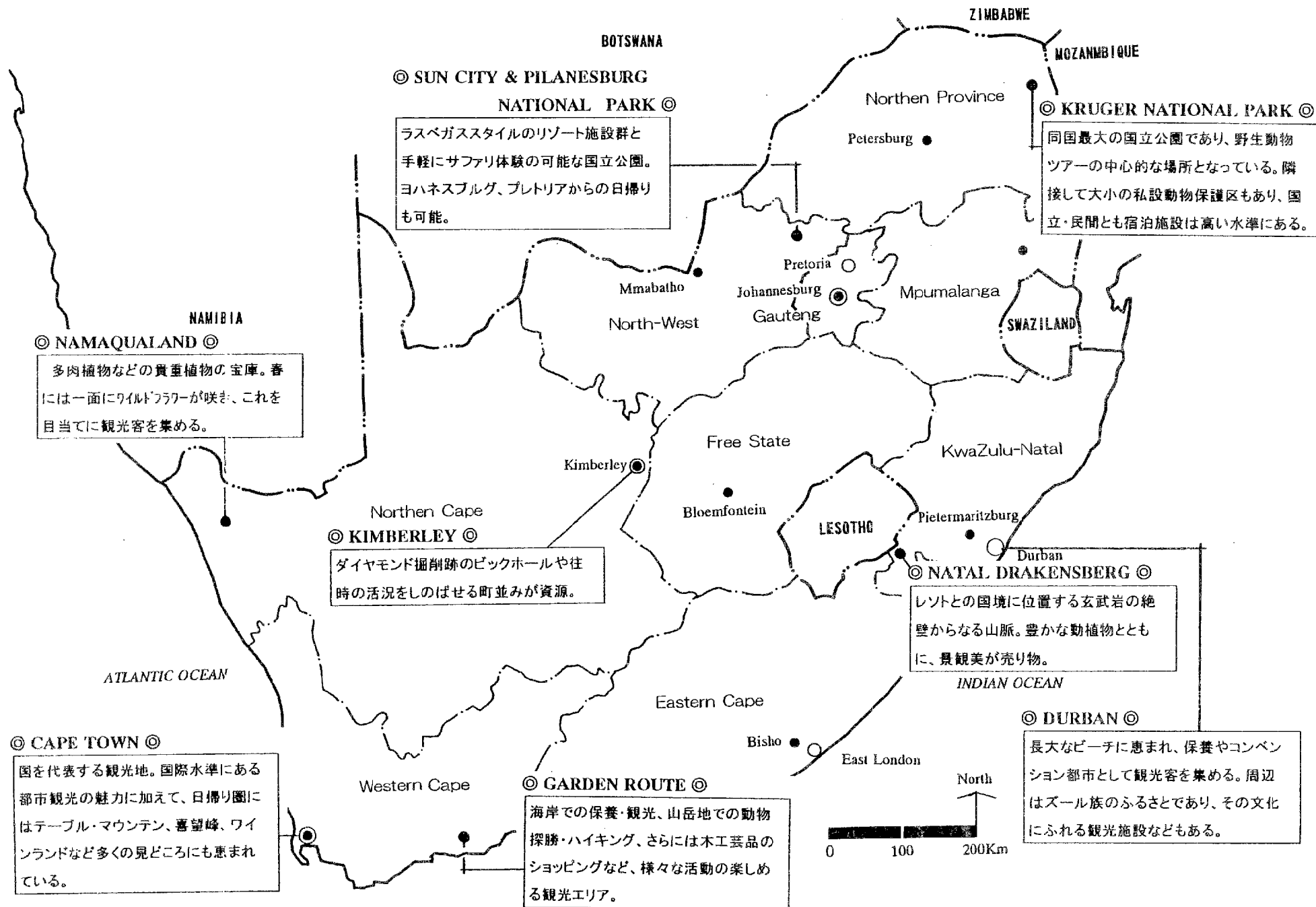


図 2-3-1 全国の主な観光資源

(2) 観光施設

美術館、博物館、テーマパークなどの観光施設については、サン・シティのようにある程度の国際観光に対応したものもあるものの、全体としては国内や地域からの利用を主体としたレベルの施設がほとんどであり、外国から目的をもって来訪する施設は少ない。

(3) 宿泊施設

南アフリカの宿泊施設は、量・質ともに十分に国際的な水準にあると判断され、また公的機関（SATOUR）により登録・格づけも行われている。宿泊施設の概要を示すと以下のようになる。

■登録施設の室・ベッド数

全国：46,345 室 94,366 ベッド

内訳：星なし（20,762 室 42,883 ベッド）、1 及び 2 つ星（5,039 室 10,662 ベッド）

3 つ星（13,222 室 26,333 ベッド）、4 つ星（4,982 室 9,993 ベッド）

5 つ星（2,286 室 4,495 ベッド）

資料：REGISTERED HOTEL OCCUPANCY FIGURES 1996, SATOUR

■稼働率

全国平均：58.96%（室） 41.61%（ベッド）

最大月：11 月（77.1%（室） 57.5%（ベッド））

最小月：6 月（41.5%（室） 25.9%（ベッド））

資料：同上

■クラス分けの規準

- ・Star-graded：ホテル、Self-Catering、Private Reserve に適用。施設内容の充実度を規準に「星なし～5 つ星」で指定
- ・Accredited establishments：B&B、Guest House に適用。施設内容が規準に達していれば指定される。
- ・この他、星数には関係なく、高いサービスやホスピタリティーを提供した宿に対し SATOUR が与える特別の称号として、SILVER（15 軒）、BRONZE（4 軒）Collection がある。

資料：ACCOMMODATION GUIDE FOR GRADED AND ACCREDITED ESTABLISHMENTS, SATOUR, 1999

2-3-2 各州の観光資源概要

南アフリカの観光は、ケープ・タウンの属するウエスタン・ケープ州が中心をしめるが、その他の州も含めて、代表的な観光資源の紹介を行うと以下のようなになる。

(1) ウエスタン・ケープ (Western Cape) 州

- ケープ・タウン：国内最大の観光地であり、テーブル・マウンテンを背景にしたまとまりのある都市美をもつ。また、港町特有のコスモポリタンな雰囲気も大きな魅力である。周辺部の日帰り圏には、世界的に知られた喜望峰などの観光スポットがある。さらに、ワインランドのゲートウェイでもある。
- ワインランド：ケープ・タウン西方のステレンボッシュ (Stellenbosch)、パール (Paarl) の町を中心とした地域で、周辺部には多くのワイン畑・醸造所が分布している。南アフリカでは最も早くからヨーロッパ人の入植が始まった場所といわれ、ヨーロッパ的な雰囲気を色濃くもつ観光地として人気がある。また、当所は、ケープ・タウンから手頃な距離にあり、ケープ・タウンからの日帰りツアーの場ともなっている。なお、ケープ・タウンとは鉄道によっても結ばれている。
- ガーデン・ルート：当州のインド洋沿岸の東端に位置するプレッテンバーグ湾 (Plettenberg Bay) から西のスティル湾 (Still Bay) までの沿岸地域を範囲とするエリアである。このルートでは、海岸での保養・観光に加えて、ウテニカ山脈 (Quteniqua) での動物探勝やソフト・アドベンチャー、木材産地として特性を生かした木工芸品のショッピング、更にはクジラ観察などの多様な活動が楽しめる。コンパクトに様々な魅力が集積した地域として人気があり、南アフリカでも最も観光施設群の整備が進んだ地域といわれている。

参考：SATOUR調査による、外国人観光客来訪“観光地10傑”

■この調査によれば、1～7位までのすべてがウエスタン・ケープ州に集中しておりケープタウンを含めて、当州がいかに南アフリカにとって観光的に重要であるかが分かる。

- 1位：Victoria & Alfred Waterfront in Cape Town
- 2位：Cape Point
- 3位：Table Mountain
- 4位：The Wine Routes in the Western Cape
- 5位：The Garden Route
- 6位：Kirstenbosch Botanical Gardens
- 7位：Ostrich farms in Oudtshoorn
- 8位：Kruger National Park
- 9位：Durban
- 10位：Cango Caves

資料：SATOUR's Summer 1998 Survey of South Africa's International Tourism Market

(2) ノーザン・ケープ (Northern Cape) 州

○ナマクワランド (Namaqualand) : 多肉植物の宝庫として、また春の降雨に合わせて花開く一面のワイルドフラワーが有名である。植物研究者や愛好者にとっては、特殊な植物や広大な花景色を堪能でき、季節的な限定はあるものの S I T (Special Interest Tour) の対象としての利用が期待されている。

○キンバリー (Kimberley) : ダイヤモンド発見 (1869 年) により生まれた町である。観光資源も採掘に関するものが多く、人力による最大の掘削跡といわれるビッグ・ホール、ダイヤモンド・ラッシュ時の町並みを再現した鉱山博物館、それにビッグ・ホールと旧市街地を結ぶ路面電車等が観光資源となっている。

(3) フリー・ステート (Free State) 州

州都であるブルームフォンテン (Bloemfontein) にいくつかの博物館やボーア戦争の記念碑、また東部地域には国立公園などがあるが、国際観光の対象となり得る資源には乏しい。

(4) イースタン・ケープ (Eastern Cape) 州

同州はインド洋に面し、ツィツィカンマ (Tsitsikamma) 国立公園からポート・エドワード (Port Edward) に至る約 820km の自然海岸が売り物となっている。また、この海岸沿いのやや内陸部には、アッド・エレファント (Addo Elephant N.P.) をはじめとする国立公園や動物保護区があり、観光資源には恵まれた地域となっている。特に、シャムワリ (Shamwari Game Reserve) 動物保護区は、第 5 回世界旅行会議にて賞を獲得するなど、優れた運営が評価されている。

また、1998 年には、コーヒー・ベイ (Coffee Bay)、ポート・セントジョーンズ (Port St Johns) 及びムカンバチ (Mkambati G.R.) 動物保護区一帯を、ワイルド・コースト S D I として観光をテーマに開発することが打ち出されている。

(5) ノーザン・プロビンス (Northern Province) 州

同州観光局はエコツーリズムに熱心であり、1998 年には S A N P (South Africa National Parks Board) と共同して、同州西北部のモザンビーク、ジンバブエ等と接する地帯一帯を「アイボリー・ルート」として開発する計画を打ち出している。このルートは、Golden Horseshoe Concept と呼ばれる馬蹄形地域の一部をしめるもので、国境を超えたエコツーリズムの取り組みが進められている。

州観光の最大の呼び物は、州北西部に位置するクルーガー (Kruger) 国立公園である。この公園は、両生類、は虫類、鳥類、ビッグ・ファイブ (ライオン、ヒョウ、バファロー、サ

イ、ゾウ)を含むほ乳類の宝庫として知られ、年間 100 万人弱の観光客が訪れる南アフリカを代表する観光資源のひとつである。

(6) ノース・ウエスト (North West) 州

州全体としては、ピラネスバーグ (Pilanesburg) 国立公園や動物保護区、ボーア戦争の戦跡がある程度で、全体的には際だった観光資源に乏しい。そのなかで、サン・シティは最大の見どころである。

サン・シティは、半砂漠地帯に建てられたラスベガス・スタイルのリゾートであり、豪華さと奇抜さを売り物にするホテル、ロストシティと呼ばれるアミューズメント施設、ギャンブル場、ゴルフコース等からなる施設群であり、ヨハネスブルグやプロテリアなどからの日帰りも可能である。

(7) ムプマランガ (Mpumalanga) 州

植物園、温泉、各種ハイキングコース、動物保護区などが州内にはあるものの、全体としては国際的な資源には乏しい。しかし、現在整備中のマプト回廊 (Maputo Corridor) は、同州に新しい観光機会を与えとの期待が高まっている。

同回廊のなかで、ブライデ (Blyde) 峡谷は、約 30km に及ぶ距離をもち、急峻な岩肌を急流がきざむ景観は、ロンリープラネット版南アフリカのガイドブックでも同国観光のハイライトのひとつとして紹介されており、同州を代表する観光資源である。

また、マラマラ (Mala Mala) 動物保護区のホテルは、アメリカン・エクスプレス・トラベル及びレジャー・マガジンの人気投票で、2 年連続して Best Small Hotel in the World に選ばれ、また 3 年連続して Best Hotel in Africa and the Middle East にも選ばれた実績があり、特色的である。

(8) ガウテング (Gauteng) 州

ヨハネスブルグや首都プロテリアを含む州である。人口集積地、国の中心という性格をもち、様々な博物館 (鉄道、民族、農業など) やいわゆる遊園地 (Gold Reef city など) といった施設は数多く分布する。

しかし、内容的には南アフリカ国民には興味対象とはなっても、国際観光客を呼び寄せるほど魅力のある施設ではなく、総じていえば決定的な観光資源には乏しい州と位置づけられる。

(9) クワズルー・ナタール (Kwazulu-Natal) 州

当州は、州観光局の調査結果によれば国内旅行者の多い州であり、1998年には約170万人が訪れている。この内約45%の人がダーバンに来訪し、以下サウス・コースト(26%)となっている。

国内旅行者に人気の高いダーバンは、インド洋に面した都市で、海岸部の長大なビーチ沿いには、高層ホテルや遊園地などが建ち並びリゾート都市としての様相を呈している。しかし、観光資源的には、植物園、同国初のヒンズー寺院などがあるものの、国際観光に耐える資源には乏しい内容となっている。

レソトとの国境に位置するドラケンスバーグ(Drakensberg)山脈は、断崖絶壁からなる特異な景観と豊かな動植物により同州の代表的な観光地のひとつとなっているが、まだ、国際的に認知された観光地までにはなっていない。

ズールーランドと北部海岸は、ズールー族のふるさとと呼ばれ、その民族・文化が観光対象となっている。また、北部海岸のセント・ルシア湖(St. Lucia Wetland Park)からモザンビークのポンタ・ド・オウラオ(Ponta do Ourao)にかけては、ルボンボ(Lubombo)回廊としてSDIの指定がなされており、観光を主体とした開発が進められる予定となっている。

2-4 自然条件と行政区分／観光インフラ

2-4-1 自然条件と行政区分

(1) 自然条件

1) 地 形

南アフリカの3分の2を内陸高地が占める。この高地は南東縁で最も高くドラケンスバーグ山脈を形成する。高地はハイ・ベルト、ブッシュ・ベルト、ミドル・ベルトの3つに分かれる。なお、南アフリカには、全国をカバーする1:50,000地形図が整備されている。

高地の大部分をなすハイ・ベルトは標高1,200~1,800mで、その北限はウィット・ウォーターズランドの岩盤地帯になっており、ヨハネスバーグ市もここにある。

内陸高地の北側がブッシュ・ベルト、つまりトランスバール盆地で、西のリンポポ川に向けてゆるやかに低くなっており、標高は平均1,200m以下である。高地の西側はミドル・ベルトとよばれ、やはり西に向かってゆるやかに傾斜していて、標高はおよそ600~1,200mである。図2-4-1に南アフリカの地形と主要道路網を示す。

内陸高地と、東部から南部にかけての海岸線との間に山地が続いている。南部では、内陸側のグレート・カルー盆地と海側のリトル・カルー盆地の間にスワート山脈が走っ

ている。またリトル・カルー盆地と海岸平野の間にはランゲ山脈がある。ケープ・タウンの真南にはテーブル・マウンテン（1,086 m）がある。南西海岸では様々な方向に走る山脈があるが、いずれも海岸平野に急激に落ち込んでいる。一方、内陸高地の北西側はカラハリ砂漠、西側はナミブ砂漠になっている。

地域区分は、自然・地形による区分に基づき内陸高原地域と縁辺地域とに大別され、高原地域は更に5地域に区別できる。

「ハイ・ベルト」は海拔1,200～3,500 mにあり、牧畜型の農業に適した土地である。東部ではウシ、西部ではヒツジやヤギの飼育に適した草や灌木に覆われている。

また東部では、夏の降雨によりトウモロコシ栽培に適し、西部では乾燥しているためモロコシ栽培に適しているといわれる。この地域の最大の経済的要素は、ウィットウォーターズランド系地層に含まれる金等の鉱物である。

「ケープ・ミドルベルト」はハイ・ベルトの西方にあたり、海拔750～1,200 mの高さにある。乾燥ないし半乾燥気候であり、灌漑の行われていないところでは粗放的な小規模牧畜のみが行われている。

「トランスバール高原盆地」はハイ・ベルトの北方にある。クロコダイル、オリファンツ、マリコなどの諸河川の沿う灌漑地域やバンケベルト縁辺地域の谷で小規模な開発計画がなされ、経済的潜在力が大きいといわれる。また、クロム鉄鉱、白金、鉄鉱石などの鉱物が大量に存在している。

「リンポポ低地」はリンポポ盆地の中部にあたる。大規模な断層運動によって形成された地域で、海拔450～1,100 mに位置する。降水量が少なく、気温が高いため、農業上の重要性は高くない。粗放的牧畜がなされているにすぎないが、メシナ地域の銅はこの地域唯一の重要鉱物である。

「カラハリ盆地」はカラハリ盆地の最南部のみが南アフリカ領内に入る。砂の表面は多少とも、草や樹木に覆われているが水分は欠如している。そのため、無居住地域がほとんどを占める。

縁辺地域においては、東部、西部、南部がそれぞれ異なった土地を形成している。

「東部縁辺地域」はその高度により、1,200 m以上のハイ・ベルト、600 m以下の海岸地帯及びこの中間に位置する地帯の3段階に区別される。クワズール・ナタールや旧トランスカイ地方では夏にかなりの降水量があり、耕作が可能で作物は気温によって決められる。ハイ・ベルト東部では牧畜、中間地帯では混合農業、クワズール・ナタール州の海岸地帯ではサトウキビ栽培が際立っている。

「南部縁辺地域」はケープ摺曲山脈によって占められている。農業は主に水利のよい海岸地帯と灌漑可能な河谷に限られている。カルー地方の植生はヒツジやヤギの飼育に適

し、灌漑された土地ではアルファルファや果樹栽培に適している。

「西部縁辺地域」については、バンラインスドルプの北方のように乾燥しすぎて農業に適さない地域と、南方地方のように、コムギなどの穀物やブドウ、モモ、プラム、アンズ等の果樹栽培に適した地域とがある。

2) 河 川

主要河川はオレンジ川、バール川、リンポポ川である。オレンジ川（2,100km）は最長の河川で、水源はレソトにあり、北西方向に流れて大西洋にそそぐ。バール川の水源地はスワジランド近くの北東部にあり、南西方向に流れてオレンジ川に合流する。リンポポ川の水源地は北東部にあり、下流部はモザンビークに入りインド洋にそそぐ。

全体として南アフリカの河川は常時流水のある河川ではなく、多くは乾期には干上がるため、水運や水力発電には不向きで灌漑用のみに使われている。

3) 気 候

一般的に気候は温暖である。南西端を除き、国土の大半はインド洋からの東偏西風の影響を受けている。この風は東部低地及び高地に年間降水量890mmの雨をもたらし、ハイ・ベルトでは380～760mmの降水量があるが、西に向かうにつれ雨量は減り西海岸ではわずか50mmにすぎない。雨期は10～4月。南西端では大西洋からの西風の影響を受ける。1月と7月の平均気温はダーバンで21～27℃と11～22℃、ヨハネスブルグで14～26℃と4～17℃、ケープ・タウンで16～26℃と7～17℃。めったに雪は降らない。高地では霜が降りることがある。表2－4－1に各州都の気候を示す。

4) 植 生

植生は降水量に左右されるため地域により異なる。降水量の最も多い東部低地はヤシが茂る雨林で、南岸沿いにアメリカクスノキ、クスノキ、コクタン、レバノンスギなどから成る森林がある。東部高地は低木林のまじった草原である。内陸高原の大部分は草地で、ハイ・ベルトには全く木のない大草原もある。ブッシュ・ベルトの草地はサバンナのようにまばらな木と藪しかなく、さらに雨が少ないミドル・ベルトでは草地もわずかしかない。そこには、降雨後だけ緑になる砂漠の植物しか生えない。グレート・カルー盆地とリトル・カルー盆地は乾燥した藪に覆われている。

表 2-4-1 各州都の気候

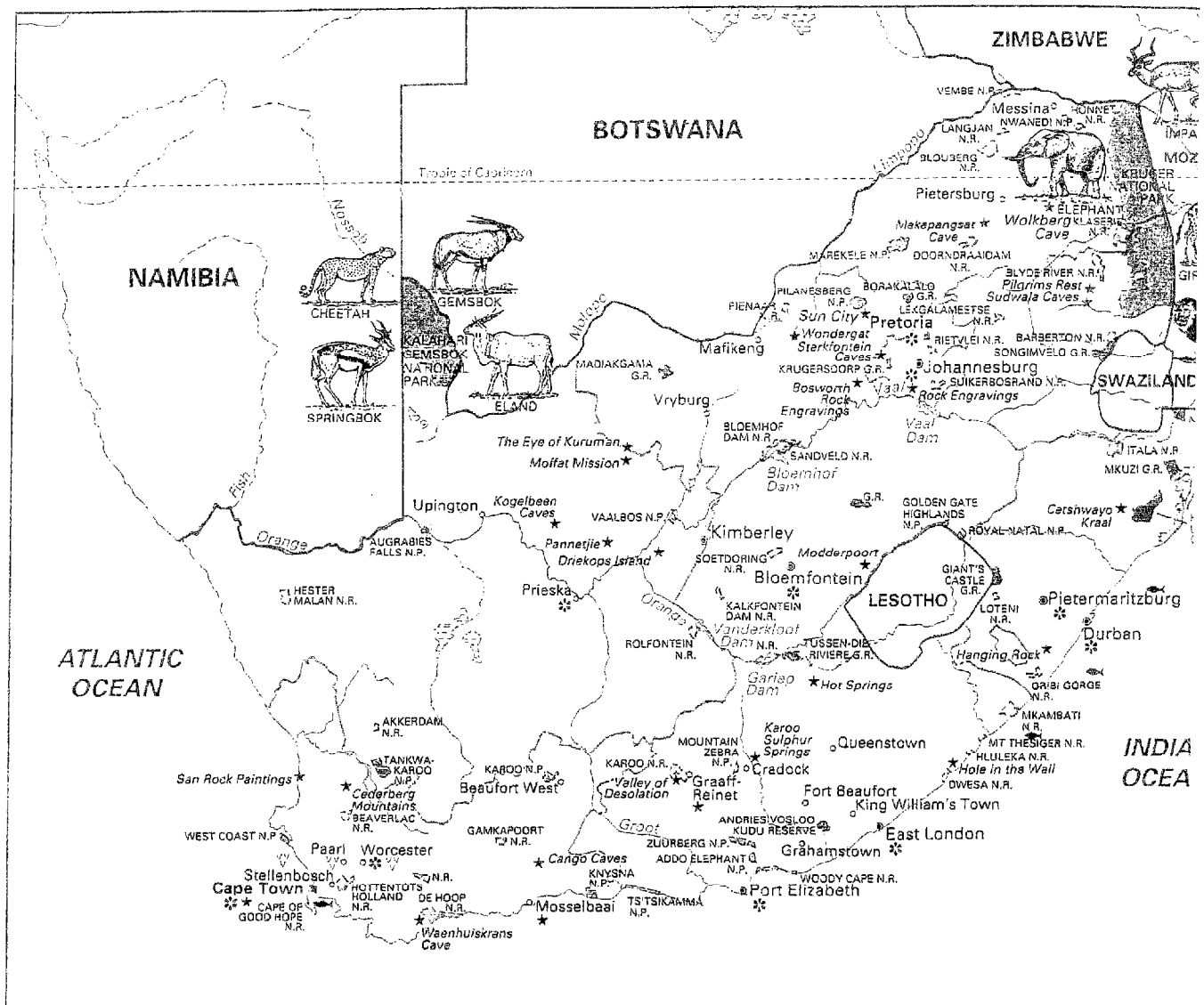
	平均気温(°C)		平均日照時間		平均降水量(mm)		平均降水日数	
	1 月	7 月	1 月	7 月	1 月	7 月	1 月	7 月
ハウテン州 (ヨハネスブルグ)	20.1	10.4	250	284	125	4	16	1
ウエスタン・ケープ州 (ケープ・タウン)	20.9	12.2	338	193	15	82	6	12
イースタン・ケープ州 (ビショー)	22.1	13.8	—	—	62	31	13	5
クワズールー・ナタール州 (ピーテリッツブルグ)	22.7	12.6	—	—	137	12	18	3
ノーザン・ケープ州 (キンバリー)	25.3	10.8	307	287	57	7	10	2
自由州 (ブルームフォンテイン)	23	7.7	296	273	83	8	11	2
ノース・ウエスト州 (マフィケン)	24.1	12	—	—	117	3	13	1
ムプマランガ州 (ネルスプロイト)	24	14.8	—	—	127	10	14	2
ノーザン州 (ピーテルスブルグ)	22.6	12.2	253	279	82	3	10	1

出典：Statistics in Brief, 1996

5) 動 物

ライオン、ゾウ、シマウマ、ヒョウ、ヒヒ、カバ、カモシカなど南アフリカ固有の大型の動物が多い。これらの動物は野生動物保護区だけでみられる。有名な保護区は、北東部モザンビーク国境沿いにあるクルーガー国立公園で、1926年につくられ、面積は1万9,490km²。この公園では南アフリカ原産野生動物のほとんどあらゆる種類がみられる。そのほか、北西部のカラハリ・ゲムスボック国立公園、ポート・エリザベス近くのアドー・エレファント国立公園、クラドック付近のマウンテン・ゼブラ（ベルグクワッガ）国立公園がある。野鳥も豊富で、大型のものには、ダチョウ、シャコ、クウエイル、ホロホロチョウ、ライチョウがいる。図 2-4-2 に南アフリカの環境保護地区の分布を示す。

South Africa Environmental Conservation



Key

- National Park (N.P.)
- Nature Reserve (N.R.)
- Game Reserve (G.R.)
- * Botanical Garden
- ★ Place of Interest
- 🎣 Sea Fishing
- 🍷 Wine Centre

0 100 200 300 400 500 kilometres

図 2-4-2 南アフリカの環境保護地区の分布

6) 人種構成

南アフリカは多人種、多部族から成る。1996年の人種構成はアフリカ人76.7%、白人10.9%、カラード（混血）8.9%、アジア人2.6%となっている。アフリカ人はズールー族、コーサ族、ペディ族、ソト族、ツワナ族、ツォンガ族、スワジ族、ヌデベレ族、ベンダ族の9部族から成り、ズールー族が最大でアフリカ人の約22.9%を占める。白人は主にイギリス系、オランダ系、ドイツ系、フランス系（プロテスタントのユグノー）から成る。オランダ系の人々はアフリカーナー又はボーア人と呼ばれ、白人人口の約3分の2を占める。アフリカ人とアフリカーナーの混血の子孫はカラードと呼ばれ、主にケープ諸州に住んでいる。アジア人は主にインド人で、クワズールー・ナタール州に最も多い。

(2) 行政区分

1994年まで南アフリカはケープ州、ナタール州、オレンジ自由州、トランスバール州の4州と10のホームランドに分かれていた。1994年4月の南アフリカ史上初の全人種が参加した選挙以前の暫定憲法で、南アフリカは以下の9州に再編された。図2-4-3に南アフリカの9州の位置図を示す。

すなわち、ハウテン州（州都ヨハネスブルグ）、ウエスタン・ケープ州（ケープ・タウン）、イースタン・ケープ州（ビショープ）、クワズールー・ナタール州（ピーテリッツブルグ）、ノーザン・ケープ州（キンバリー）、自由州（ブルームフォンテイン）、ノース・ウエスト州（マフィケン）、ムプマランガ州（ネルスプロイト）、ノーザン州（ピーテルスブルグ）。

独立したホームランド（トランスカイ、ボプタツワナ、ベンダ、シスカイ）を含めてすべてのホームランドは解体され南アフリカに再統合された。次に9州の地域特性を述べる。

1) ハウテン州

夏は暑く、雷雨を伴う雨期のシーズンを過ごすこの州は、冬には霜が降りるほどの凍てつく寒さに変わり、時には雪も降る。朝晩の気温の変化は激しく乾燥している。

GDPの40%を生み出す、南アフリカの経済的心臓部でもあるハウテン州は最も面積の狭い州である。しかし人口は最も多く約700万人を抱え、大都市として発展してきた。

アフリカーナーが最も多く、全体の20%以上を占めている一方で、クワズールー・ナタール州からの出稼ぎ労働者としてやってきたズールー人が18.4%、イギリス系白人が16.1%の割合で住んでいる（1995年）。

州都ヨハネスブルグ（Johannesburg）は別名エゴリ（Egoli）、金の町とも呼ばれ国

の中心として栄えてきた。中心街は高層ビルの立ち並ぶオフィス街であるが、近年犯罪が増加するにつれてサントン（Sandton）へオフィスを移す傾向がある。

サントンにはショッピング街やレストランも多くあり、ヨハネスブルグとは違った華やかな町並みである。南アフリカの首都プレトリアはヨハネスブルグから50kmほど北にあり、政府の行政区でもある。各国の大使館や研究機関はほとんどここに集中している。

1886年に始まるゴールド・ラッシュ以来、入植者の建てた伝統的な建物はいまなお健在で、歴史的な博物館や記念館も多く残されている。また、この州の観光名所としてゴールド・リーフ・シティがある。

都市化が進んでいるとはいえ、中心街を離れるとアウトドアを楽しめる環境はまだ残されている。リートフレイ（Rietvlei）やファウンテン峡谷自然保護区（Fountain's Valley Nature Reserves）、ハイデルベルグ（Heidelberg）、クロフ・エン・ダール自然保護区（Kloof-en-Dal Nature Reserve）、マーハリースベルグ（Magaliesberg）では、最も多い人口を抱えるこの州にとっては憩いの場所となっている。

農業は盛んではないが、日常生活に消費される食べ物、特に野菜や果物、肉、卵などは小規模ながらこの州においても生産されている。またブロンクホルストスプライト（Bronkhorstsspruit）やキュリナン（Cullinan）、ハイデルベルグにおいてはピーナッツ、ヒマワリ、綿、キビの栽培が盛んである。

ハウテン州が他州と比べて経済的に際立って有利な立場にあるのは、豊富な人材によるところが大きい。各分野の専門家及び熟練労働者が多いという点において、海外からの投資がこの州に集中している。

ヴァールダム豊富な水によって、この州は産業都市としても大きく発展してきた。ファール・トライアングル（The Vaal Triangle）は製造分野において、ウエスト・ランド（West Rand）は採鉱業、セントラル・ヴィッツヴァーテルス・ランドでは製造業と金融業、プレトリアは政府関連のサービス業、輸送業とその関連産業など、水の恩恵を受けて産業化は発展してきた。

しかし、都市化が進むに連れて増加する治安の悪化は、この州の最重要課題として残されている。凶悪な犯罪が増えるにつれて投資を控える海外企業も出ている。

2) ウェスタン・ケープ州

アフリカ大陸最南端に位置するアガルハスやヴァスコ・ダ・ガマが立ち寄ったことで知られる喜望岬を有するウェスタン・ケープ州は、南アフリカでも随一の観光都市

として知られる。人口約370万人が住むこの州は、過ごしやすい気候と緑豊かな自然に囲まれ、四季折々の自然の変化がある。

人口の約半分以上は「カラード」と呼ばれる「異人種」間にできた人々のグループで構成されており、他にコサ人、イギリス系、フランス系の白人、オランダ系のアフリカーナー、マレー系、インド系、中国系、他のヨーロッパからの移民なども含め、国際色豊かなところである。言語は主にアフリカーンス語が話されるが、多くの人々は英語も解し、話すことができる。成人の識字率は95%と南アフリカ全9州のなかで最も高く、教育に対する意識は高い。

州都ケープ・タウンはジョージ王朝様式の荘重な建物が並び、国会議事堂や最高裁判所、博物館など歴史的建造物が多い。周辺には美しい白浜のビーチがあり、優雅なホテルがたくさんある。テーブル・マウンテンはケーブルカーで頂上まで行くことができるが、歩いても3～4時間くらいで頂上へ登ることができる。

ケープ・タウンから車で1時間ほどのところにあるステレンボッシュ(Stellenbosch)やフランスフーク(Franschhoek)では、美しい農場が広がり、伝統的ケープ・ダッチの家々が残されている。ここは世界でも有数のワイン産地としても有名で、ワイン・テイスティング・ツアーもある。

また、このほかにもナイズナ(Knysna)やツィツィカマ(Tsitsikamma)ではキャンプやハイキングのための森や溪谷が残されており、カルー国立公園(Karoo National Park)には野生動物が生息している。ウエスト・コースト国立公園(West Coast National Park)では春になるといっせいに花が咲く。オウツホールン(Oudtshoorn)ではダチョウが飼育され、ヘルマヌス(Hermanus)では11月ごろにやってくるクジラを肉眼で見ることができる。

鉱物資源に恵まれていないこの州では、観光が主要産業であるが、農業、漁業も盛んで、リンゴ、ブドウ、オリーブ、モモ、ミカンといった果物栽培に加えて、東部では各種野菜が作られている。

このほか、小麦の栽培、ダチョウの飼育によってとれる肉、皮革製品、羽は輸出商品として重要な位置を占め、さらに羊の毛や肉、家畜用の飼料、牛肉、鳥肉、卵などあらゆる農業、牧畜業が行われている。

漁業では、ベンゲラ海流のもたらす豊かな水質によってロブスターやアワビ、小形のイカ、タコ、カキ、カラス貝がとれる。地元漁業を守るため、外国漁船に対しては200kmの商用漁業区域が設けられ、漁獲高も厳しく制限され、各国割り当て制になっている。

こうした地元漁業発展に力を入れることにより、漁業関係に携わる労働者は2万

8,000人を超える。この州でとれた魚介類は南アフリカのみにとどまらず、ほかの南部アフリカ周辺諸国へも輸出されている。

農業、漁業以外の主な産業は衣料品の縫製や織物工業で、50万人以上の人々に雇用を創出している。また出版、印刷、保険、小売販売のチェーンストア等の本拠はこの州に集中している。失業率は全州のなかでも低く、17.3%（1996年）である。

3) イースタン・ケープ州

国内で2番目に広大な土地を有するイースタン・ケープ州では首都をビショーに置き、約650万人の人々が暮らしている。8割以上がコサ人で占められ、残り2割はアフリカーナー、カラード、イギリス系白人で構成されている。5つの大学、3つの専門学校、20の短大を擁しているが成人識字率は72%と全国平均よりも10%低い。

州内は低い丘や岩が連なる乾燥したグレート・カルー（Great Karoo）一帯を擁する一方で、緑豊かな森林地帯であるトランスカイ・ワイルド・コースト（Transkei Wild Coast）やケイスカマ峡谷（Keiskamma Valley）、美しい山々があるドラークェンズベルグ（Drakensberg）、リンゴ栽培が行われているラングクローフ（Langkloof）と、変化に富んだ自然環境に恵まれた地理である。貴重な野生動物が多く生息する国立公園や自然保護区に指定された地域が多いのもこの州の特徴である。

またインド洋から流れてくる暖流と、白く長い海岸線、美しい入江が観光資源になっている。この美しいビーチとともにイースト・ロンドン（East London）では設備の整った港もある。

イースタン・ケープは白人入植者の面影を今も色濃く残している。キング・ウィリアムズ・タウン（King William's Town）では入植者の辿った歴史がそしてステュッテルヘイム（Stutterheim）にはドイツ系入植者が築いた町並みが残されている。

農業と林業は今後のイースタン・ケープ州にとって重要な産業である。アレクサンドリア（Alexandria）からグラハムスタウンにかけてはパイナップル、チコリ、マグワ（Magwa）ではコーヒー、紅茶がとれる。

旧トランスカイ地域ではほとんどの人々がトウモロコシ、キビの栽培、牧畜に携わっているがその生産能力は他と比べて低い。カルー内陸部においては羊の飼育に加えて、アンゴラの毛皮の生産にも力を入れている。植林や造園も盛んで、またポート・エリザベスやイースト・ロンドンでは自動車の製造工場がある。

失業率は高く、出稼ぎにウエスタン・ケープ州などへ出る人も多い。こうした背景には、この州一帯が植民地化及びアパルトヘイト政策によって著しく搾取されてきたという歴史によるところが大きい。この州は前白人政権が一方的に独立国として扱っ

ていたトランスカイやシスカイなどの貧しい地域が吸収される形で成立したため、人種差別政策の負の遺産をそのまま引き継いでいる。大きな可能性を秘めつつもいまだ開発から取り残された地域が多々存在する要因として、歴史的背景を抜きにしてこの州を語るのは不可能である。

4) クワズールー・ナタール州

南アフリカの庭園と呼ばれるこの州はイースタン・ケープ州同様、暖かいインド洋の潮流の影響を受けて亜熱帯性の植物に恵まれた豊かな土壌を有している。冬にはこの地域の暖かい気候を求めて、他州から保養にやってくる人々は年間130万人を超える。

人口約870万人の人口のうち39%は15歳以下の若い世代が占めており、2番目に人口の多い州である。8割はズールー人で構成されており、イギリス系白人が16%を占めている。他州よりイギリス系の白人が多い要因のひとつとして、この地域一帯がイギリス人入植者の拠点であった歴史的背景がある。

また、インド系の人々が最も多く住んでいるのもこの州で、ダーバン（Durban）にはインド人街やヒンドゥ教寺院、モスクがある。ピーテルマリッツブルグ（Pietermaritzburg）やダーバンの中心街はヴィクトリア様式の荘厳な建物や家並みが立ち並ぶ一方で、都市から離れた田舎ではズールー人が今もなお伝統的な家に住んでいる。

この州は政治的にいまだ不安材料を大きく抱えている。ズールー人の伝統的王朝の王制に対して南アフリカ憲法はその地位を保証している。特にズールー王国はその政治的権力も他と比べものにならないくらい大きく、今なおズールー人にとってその存在は大きい。ズールー王国の偉大な王として嵩められているシャカ王は入植者と激しく戦った英雄として人々の間で語り継がれている。

ダーバンは世界で10番目に大きい港であり、港の周辺はここ数年で急速な勢いで都市化が進んできた。またリチャーズベイ（Richard's Bay）は重要な輸出品目である石炭の輸出港である。こうした良港のほかにも、ポート・シェプストーン（Port Shepstone）やウムランガ（Umhlanga）、マーゲイト（Margate）等海岸沿いのリゾート地も多くある。

海岸沿いだけでなく内陸部においてもこの州を訪れる観光客は多い。マングローブやパーム等の植物の特性によって、他州では見られない自然環境が保護されている。一方、ドラーケンスベルグ（Drakensberg）は、様々な種類の花が咲く丘陵や、マスの生息する川、火山岩によってできた峰、温泉の流れる滝など自然をそのまま残してい

る。

観光業のほかには、北部で石炭、リチャーズベイ近郊で重金属、ニューキャッスル (Newcastle) では石炭がとれる。近年、豊富な水と労働力に支えられて、クワズールー・ナタール州では採掘のみならずこうした鉱物資源の加工にも力を入れ急速な工業化が進んでいる。最も重要な農産物はサトウキビで、この州の経済の中心的役割を果たしている。また、亜熱帯の果物や野菜の栽培、畜産業、林業も盛んである。

クワズールー・ナタール州は工業化のめざましい都市と、開発から大きく取り残されたままになっている農村との間で収入の差が激しく、人口の約半分はフォーマル・セクターに従事しているが、雇用機会に恵まれない多くの労働者はハウテン州 (Gauteng) へ出稼ぎに出ている。農村部はこうした出稼ぎ労働者の仕送りに依存している。熟練労働者の育成が最も望まれているが、識字率も全州平均より低く、教育制度の充実が必要とされる。

5) ノーザン・ケープ州

最も広い州でありながら、最も少ない人口を有するこの州は、南アフリカの心臓部ともいえるダイヤモンドをはじめ鉱物資源を保有している。オレンジ川 (Orange River) 沿いを除けば、岩肌に閉ざされた土地や乾燥した草原地帯が大部分を占めるこの州においては大部分を鉱物資源の採掘、加工に依存している。

人口約74万2,000人のうち6割以上がアフリカーナー、カラードで占められ、ツワナ人が全体の19%、コサ人が6.2%を構成している。人々はこの広大な土地に散在して住んでおり、北部カラハリ地帯一帯には今なお昔ながらの伝統的な生活続けるサン人がいる。

冬に雨の降る西海岸沿いを除けば、全体として湿気がほとんどなく、夏に少量の雨が降る程度である。冬は霜が降りるほど寒く、夏は極端に暑い。

こうした厳しい自然環境の下、少量の水に耐え得る特殊な植物があることでも有名なこの州は、春の短い期間花がいっせいに開花する時期がある。一方で、こうした自然環境のなかで様々な動物たちも生息する。柵づけされていない最も自然な状態で保存されている国立公園も多く、その代表はカラハリ・ゲムスボック国立公園 (The Kalahari Gemsbok National Park) である。200万haの広大な土地にあるこの国立公園は隣国ボツワナにまたがっている。このほかにもタンクワー・カルー国立公園 (Tankwa-Karoo)、ファールボス国立公園 (Vaalbos) などに典型的なアフリカの光景が残されている。

ノーザン・ケープ州は、歴史的に内陸を流れるオレンジ川やファール川 (Vaal

River) 沿いを中心に発展してきたため、現在ベンゲラ海流の恩恵を受けた西海岸沿いは、観光や、漁業、港湾業として有効的に利用されていない。

農業はブドウなどの果物栽培が中心で、南アフリカで最も北に位置するワイン・ファームがある。とれた果物はその独特の気候を生かしてドライ・フルーツとして市場に出回っている。このほか、小麦やピーナッツ、トウモロコシ、綿なども作られている。羊牧業が盛んなアップントン (Upington) をはじめとして、皮革製品の製造に携る人々も多い。

ノーザン・ケープ州は全州のなかで最もダイヤモンドをはじめとする様々な鉱物資源に恵まれている。州都キンバリー一帯で採掘されるダイヤモンドは今や世界市場に出回っていて有名であるが、アレクサンダー・ベイ (Alexander Bay) からポート・ノロス (Port Nolloth) にかけての海岸沿いや海中においてもダイヤモンドが採掘されている。またシシェン (Sishen) においては鉄鉱石、オキープ (Okiep) やスプリングボック (Springbok)、アヘネイズ (Aggenys) では銅がとれる。このほかアスベストやマンガン、ホタル石、準宝石、大理石がとれる。

こうした鉱物資源に恵まれてはいるものの、この州の開発はあまり進んでいない。広大な土地と交通網の未発達ということに加えて、水資源に恵まれていないことが経済的発展への道を閉ざしている。

6) 自由州

南アフリカの中央に位置する自由州は全州のうち3番目に広大な土地を有しているが、イースタン・ケープ州同様人口密度は低い。人口約280万人のうち半数以上はソト人で占められ、次いでアフリカーナー、カラード、コサ人と続く。成人識字率は84%とほぼ全国平均並みである。

州北部を流れるファール川と南部を流れるオレンジ川のもたらす豊富な水資源はこの地域一帯の農業の発展に大きく貢献しているが、同時にこの川沿いでとれる鉱物資源は州の最も重要な収入源である。州都ブルームフォンテインには40万人が住み、中心街には新旧の建物がバランス良く立ち並んでいる。

交通網は発展しておりハウテン州やウエスタン、イースタン・ケープ州両州へのアクセスに使われる国道はほぼこの州を通過する。

草原の広がるこの州では様々な種類の動物が生息している。激しい気候の変化にさらされることのないこの草原地帯においては、絶滅寸前といわれる貴重な動物たちも多く生息している。ゴールデン・ゲート国立公園 (Golden Gate National Park) ではスプリングボック、オオカモシカ、アカシカレイヨウ、クロワシなどが生息し、ヴィ

レム・プレトリウス自然保護区（The Willem Pretorius Nature Reserve）では絶滅寸前のブラック・ワイルド・ビーストの保護にあたっている。このほか同自然保護区ではアフリカン・バッファローの生息地としても知られている。スートドーリング保護区（The Soetdoring Reserve）ではライオン、チーター、ブラウンハイエナが生息している。

こうした自然以外にも、先住民が描いた古代の壁画が多く残されている。ベツレヘム（Bethlehem）やフィックスブルグ（Ficksburg）、レディーランド（Ladyrand）には貴重な古代遺産がある。

オレンジ川の豊富な水量を利用したハリープ（Gariep）ダム、ファンデルクローフ（Vanderkloof）ダム及びリュフテフォンテイン（Rugtefontein）ダムといった多くのダムがある自由州は、南アフリカの穀物倉と呼ばれるほど肥沃な土地に恵まれている。このため、国全体の耕作に適する土地の31%は自由州に集中している。

州北部はトウモロコシの生産が中心で、南部では羊牧業が盛んである。北部ではソト人が作る手作りの籐製品が有名で、家具やかごが作られている。ソト人の手工芸品には銅や真鍮を使ったものも多く、土産物として生産している。

南アフリカの人々が毎日のように食べるジャガイモの40%はこの州で収穫され、果物栽培では国全体の90%のサクランボがこの州でとれる。このほか、アスパラガスや大豆、キビ、ヒマワリ、小麦なども栽培される一方、種の生産販売も盛んである。しかしながらこうした豊富な水に恵まれるこの州も、時には干ばつなどの被害を甚大に受けるため、安定した生産量を供出し続けるのは難しい現状である。

ヴェルコム（Welkom）、オーデンダールスリュス（Odendaalsrus）、ヴァージニア（Virginia）、アランリッジ（Allanridge）にはヴィットヴァーテルスランド（Witwatersrand）を主源とする金鉱脈が広がっており、州の重要産業のひとつである。またボショフ（Boshof）、コフィーフォンテイン（Koffiefontein）、ヤーヘルスフォンテイン（Jagersfontein）、クローンスタット（Kroonstad）、テューニッセン（Teunissen）ではダイヤモンド、サソルブルグ（Sasolburg）では石油がとれる。ゴム、プラスチック、ワックス、肥料などの化学製品の製造も盛んである。失業率は4人に1人と深刻であるこの州にとって、製造業の発展はこれからの重要な位置を占める。

7) ノース・ウエスト州

人口約330万人が住むノース・ウエスト州はツワナ人が約6割を占め、アフリカーナー、カラードが8.8%、コサ人が6.3%という人口構成である。この州は19世紀に金やダイヤモンドの発見によって一獲千金をねらう多くの入植者がおしよせた地域であ

る。新政権樹立後、州都はマフィケン（Mafikeng）に置かれ、現代アフリカ・デザインの建造物が多くある。

南部の牧草地帯を除けばほとんどがサバンナで占められるこの州では、多くのサファリがある。有名な国立公園として火山口にあるピラーネスブルグ国立公園（Pilanesburg National Park）があり、またゾウ、ライオン、レオパード、バッファロー、サイなどの動物が生息するマディクウェ・ゲーム保護区（Madikwe Game Reserve）もある。一方、サン・シティーやロスト・シティーといったリゾート地もある。

夏に雷雨を伴った雨期に入るこの州ではトウモロコシやヒマワリ、ピーナッツの栽培が盛んである。リュステンブルグ（Rustenburg）やブリッツ（Brits）ではタバコやパプリカをはじめとして小麦、こしょう、綿などがとれる。世界でも最も広い放牧地域として知られるフレイブルグ（Vryburg）では牧畜が盛んである。

この州の歳入の55%を占めるのが鉱山業で、全人口のうち4人に1人はこの分野に従事している。クレルクスドルプ（Klerksdorp）やオークニー（Orkney）、スティルフォンテイン（Stilfontein）は金やウランがとれる。またリヒテンブルグ（Lichtenburg）やコスター（Koster）、クリスティアナ（Christiana）、ブルームホフ（Bloemhof）ではダイヤモンドが採掘されている。リュステンブルグやブリッツは世界で最も大きいプラチナの産地である。また多彩で高品質な大理石がとれるタウン（Taung）、ホタル石の産地としてセリュスト（Zeerust）もある。

製造業や鉱山業の盛んなこの州では都市と田舎の貧富の差が激しく、貧困は深刻な問題である。雇用機会の創出及び教育制度の充実はこの州の最重要課題である。

8) ムプマランガ州

州名であるムプマランガ（Mpumalanga）は「太陽の昇るところ」という意味をもつ。天然資源に恵まれたこの州では、採鉱業や林業が盛んで人口約300万人が住む。スワティ人が全体の30%を占め、続いてズールー人が約25%、ンデベレ人が約10%という人口構成である。この州は深刻な貧困問題を抱えており、成人識字率も全州のなかで2番目に低い。豊富な天然資源を持ちながら開発から著しく取り残された地域でもある。

東海岸沿いの温暖な海流はこの州に亜熱帯の緑豊かな森林地帯をもたらす一方、内陸部ではサバンナ地帯が広がる。北東に切り立つようにそびえている山々には滝があり、この州の自然環境には独特のものがある。こうした自然を楽しめる環境としてはブレイデ・リバー・キャニオン自然保護区（The Blyde River Canyon Nature Reserve）が有名である。バッドプラース（Badplaas）には温泉があり、南アフリカで最も大き

い湖のあるクリシースメール（Chrissiesmeer）では水鳥（特にフラミンゴ）が生息している。スドゥワラ・ケイブ（The Sudwala Cave）には古代先住民の描いた壁画が山々に囲まれる形で残されている。

この州は夏に雨期を迎え、冬は山岳地帯を境に、寒く霜が降りる地帯と比較的暖かな地帯に別れる。夏は暑く湿気を多く含み霧がかかるほどであるのに、冬は寒く山の頂上には雪が降り積もることもある。

農業では亜熱帯の気候を生かして、マンゴーやアボカド、ライチ、バナナ、パパイヤ、グァバ、グラナディアなどのトロピカル・フルーツの栽培が盛んである。柑橘類の生産は全国で2番目に多く、特にオレンジは輸出用として重要な位置を占めている。フロブレルスダール（Groblersdal）では柑橘類の果物生産に加えて、綿、タバコ、小麦、野菜の栽培が行われている。カロリナ〜ベタール〜エルメロ（Carolina-Bethal-Ermelo）地域では羊牧業が行われている一方、ジャガイモ、ヒマワリの種、トウモロコシ、ピーナッツなども生産されている。林業もこの州の経済活動においては重要な役割を果たしている。この州でとれる木材は主に採鋁業において使われており、松やゴムの木の生産も盛んである。

ムプマランガ州では石炭に恵まれており、石油も採掘される。このため南半球でも最大級の発電所があるが、採掘作業による大気汚染は深刻な問題である。このほか、豊かな森林を利用してンゴドゥワナ（Ngodwana）では製紙業が盛んである。ミデルブルグ（Middelburg）では鉄やバナジウムがとれる。

9) ノーザン州

ノーザン州はムプマランガ州同様変化の多い自然形態を有している。リンポポ川の流れるこの州では低木の連なる草原地帯や美しい山並み、原始林の茂る森、荒野、四季によって色彩の変わる畑などバラエティーに富んだ自然環境である。

人口約500万人のこの州では、半数以上がペディ人、約23%がツォンガ人、約12%がヴェンダ人で構成されている。ハウテン州、クワズールー・ナタール州に次いで人口密度の高い州である。開発から大きく取り残されてきたこの州では、雇用機会に恵まれない多くの労働者が出稼ぎにハウテン州に出ている。しかし、肥沃な土壌と美しい自然環境及び豊かな鉱物資源を有するこの州は、これから開発の余地を十分に残しており最も経済的発展の可能性を秘めた州である。

南アフリカの最も有名な国立公園であるクルーガー国立公園（Kruger National Park）はこの州の北東部にあり、多くの観光客が毎年訪れる。南部にはその名のとおりウォームバス（Warmbaths）と呼ばれるミネラルを多く含んだ温泉もある。ヴォルク

ベルグ森林地帯（Wolkberg Wilderness Area）では美しい山々や森林、滝などをはじめとして、この州にはユニークな自然が残されている。パーシー・ファイフェ自然保護区（Percy Fyfe Nature Reserve）では、絶滅寸前のセーブル、アンテロープを保護している。

変化に富んだ自然を保有するこの州では、冬も温暖な気候であるため、様々な種類の農作物が生産されている。ウォームバスからネイルストローム（Nylstroom）にかけての一带においてはヒマワリや綿、トウモロコシ、ピーナッツ、ブドウの生産が盛んである。亜熱帯の気候を生かしてトロピカル・フルーツの生産も盛んで、ツァーネン（Tzaneen）やルイス・トリチャルト（Louis Trichardt）ではパイナップルやライチ、マンゴー、パパイア、数種類のナッツ類がとれる。この2つの地域ではまたコーヒーや紅茶の栽培やトマトも栽培されている。州都ピーテルスブルグ（Pietersburg）南部ではムプマランガ州同様、柑橘類の生産が盛んである。

林業も盛んで、この州で生産される木材は主に家具製品として加工される。またこの州では銅やアスベスト、石炭、鉄、プラチナなど豊富な鉱物資源がとれるものの、その開発はまだ本格化されていない。多くの農村地帯に住む人々は自給自足の生活をし、出稼ぎ労働者の収入に頼っている。南部アフリカ3州と接している地理的条件を生かして今後の開発が待たれる。

（州に関する参考資料：南アフリカ（財）海外職業訓練協会）

